



Pick Up!

地域おこし協力隊員
伊藤淳史
さん

名水百選の風布川が流れる「日本の里」。一段と山の緑が濃くなった5月上旬、同施設では、バーベキューや川遊びを楽しむ家族連れの姿が見られました。施設内のレストハウス「風布館」では、うどんなどのメニューを提供しています。

「おすすめは『かすうどん』。本場の味を可能な限り再現しました」
そう話すのは地域おこし協力隊の伊藤淳史さんです。

地域おこし協力隊として移住した伊藤さんは千葉県八千代市出身。およそ2年前に初めて寄居町を訪れました。

「以前から動画配信をやってみたいという気持ちがありました。そこで会社の休みを利用して、活動拠点となる場所を探すことにしました。知り合いを頼って寄居町に2週間ほど滞在し、河原など、町の中を探索しました。本庄市や深谷市などにも足を延ばしました。そのときの立ち寄り先の一つが、風布地区。「ふうぶ」という響きがバスケットボールのHOOP(フープ)を連想させ、運命を感じました」

以前プロバスケットボールチームに所属していた伊藤さん。地域おこし協力隊に着任する前から自身のYouTubeチャンネル「HOOPCHA



動画を撮影する伊藤さん

NNEL(フープチャンネル)」を開設し、バスケットボールや寄居町についての情報発信を既に行っていたといいます。

「自然豊かで食べ物おいしい、いいところだと思っていました。そのころから風布館の手伝いをしていましたが、寄居町で地域おこし協力隊を募集していることを知り、すぐに応募しました」

その後、伊藤さんは令和3年8月に地域おこし協力隊の隊員としての活動を開始。現在は風布館を活動拠点とし、地域おこし協力隊の「魅力向上・集客促進活動」の分野を担当しています。



4月に一般公開された旧洋裁学校(主催/合縁奇家)



寄居×和装プロジェクト

寄居×和装プロジェクト

「夏は浴衣が着たいのに、お祭りが中止。浴衣を着るきっかけを」との思いから始めた「寄居×和装プロジェクト」。

大田さんは「和装が似合う町として写真好きの方が注目してくれたらいいな」と思い、このプロジェクトを実施しました。寄居を歩く楽しみの一つとして捉えてもらいたいです。今後も引き続きポスターやパンフレットで街歩きの魅力を発信していきたいです」と語ってくれました。



和装で歩く
寄居ガイドマップ

空き家活用チーム
合縁奇家(アイエンキエ)

「想い」の詰まった空き家・空き店舗などの物件を未来に残すため、管理・保全・運用・マッチング等の活動を行う空き家活用チーム「合縁奇家」。チームの名前の由来は「不思議な巡り合わせの縁」という意味を持つ四字熟語「合縁奇縁」から着想。大田さんは、このチームのメンバーの一人としても活動しています。

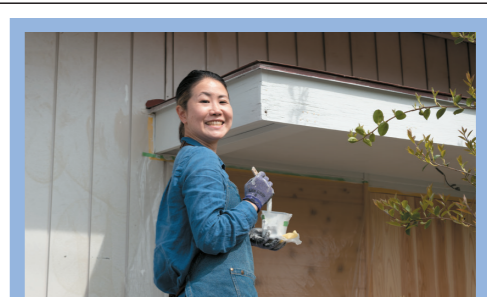
チームは中心市街地の一角にある

空き家の可能性

旧洋裁学校の建物の保全活動を行い、4月に同建物を一般公開しました。さらに公開に合わせて、学校が開かれていた1960年代当時の裁縫道具やレシピなどを展示。この取り組みは、中心市街地に眠る空き家の可能性を示し、訪れた方々は、昭和レトロな展示品の数々に懐かしさを感じていました。

空き家の魅力、そして可能性について大田さんに聞きました。

「空き家の魅力は、そのままと価値がないものから、新しい価値を生み出すところにあります。以前の仕事で



大田さんに聞く！

寄居町の可能性とは？

寄居町の魅力は人だと思います。面白く、そして個性の光る方が多いと感じています。移住する前、寄居町の方から、この町のこと、そして住んでいる人のことをたくさん教えていただきました。自分の住む町や人について話せることは、純粹にすごいことだなと思います。また、寄居町の方々は、私のような「よそ者」を温かく受け入れてくれました。ある方から寄居は街道筋にあるため、古くから旅人が行き交い、それによって外部からさまざまな文化を取り入れてきた風習があると聞きました。新しいコトやモノを受け入れられる気質は、寄居町の方々が持っている一つの可能性なのかもしれません。